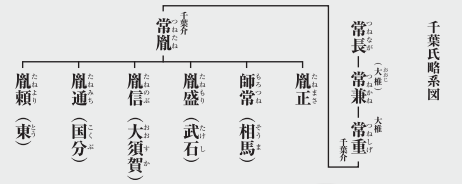


東国の混乱と千葉氏の勃興

ちばのしよう せいつつ ちばし
千葉庄の成立と千葉氏のおこり

平忠常の子孫であった大椎常兼は、上総国大椎を本拠地として下総国一帯に勢力をふるいました。その子常重は、家督を継ぐと1126年(大治元年)拠点を上総国大椎から千葉に移し、新たな武士団をつくりました。このころ常重は、先祖代々の土地を院に寄進し、千葉庄を成立させ、現地での支配権を確実なものとしようとしました。

※ 院・・・中央の有力者である天皇家の一族。



千葉介常重
『下総国千葉郷妙見寺大縁起絵巻』より
歎喜寺蔵 非公開

常重は、両総平氏に属する大椎常兼の嫡子。常兼の没後、千葉に移住し、新たに武士団(千葉氏)を形成する。



大日寺の五輪塔 千葉市稲毛区轟町

千葉氏の菩提寺とされた大日寺には14世紀前半から15世紀前半頃に造られた16基の五輪塔がある。千葉氏一族の墓と伝えられる。